

第5回第三者委員会の意見と対応方針(案)

平成 2 8 年 1 2 月 1 日

農 林 水 産 省

第5回第三者委員会の主な意見と対応方針(案)

区分	意見	委員名	対応方針(案)
ロジックモデル	・ロジックモデルの各項目のつながりは、他の要因が大きく関わってくることも考慮が必要。また、それぞれの関連性は、空間的スケールも大小様々だと思うので、適切なスケールを検討する必要。	鷺谷委員	・インプットからインパクトまでを結ぶ線については、事例調査やアンケート調査、統計分析等の結果をもとに影響の程度を表現できるよう工夫する。 【資料5】
	・過去に土地改良事業の評価を行った際、デマテル法を使用したと思うが、主観的な判断で線の太さを変えていた。ロジックモデルの項目間の関連性について、因果関係を証明する手段が無い場合、主観的に判断する方法もある。	星野委員	
	・このロジックモデルは、インプットからアウトプットを通じてインパクトまでを捉えようとしているが、副次的、波及的な効果も枝葉として発生することから、取りまとめ方について工夫が必要。	中嶋座長	
	・農村地域にある地域資源は、構造改革的な面と農村環境の面と2面性を有することから、中期的アウトカムよりも前の段階で地域資源のとらえ方を整理して、それぞれにつながっていくようなモデルを検討する必要。 ・統計データ分析では、環境保全型農業との関連性を分析しているので、ロジックモデルにも整理されたい。その際、環境保全型農業は、構造改革の後押しと環境を良くする両方の側面があり、多角的に評価する必要。	水谷委員	・インプットに位置づけている農地、水路、農道等の地域資源に対して、各種の共同活動を通じて起こるアウトプット、アウトカムを整理するとともに、「地域資源の保全」や「農村環境の保全向上」等の中間評価の視点を各種のアウトカムの包括的な概念として位置づけ、関係性を整理する。 【資料5】
	・ロジックモデルは、各種の活動によってどのような現象が起こるかを項目立てて整理するものなので、地域資源のとらえ方という概念から項目を1つにまとめない方がいい面もあるので、検討する必要。 ・短期的アウトカムと中期的アウトカムとに区分しているが、より包括的な視点からのアウトカムを見ているのが中期的アウトカムだと思うので、それが時間軸での切り分けなのか、空間的、概念的な広がりなのかを整理されたい。	中嶋座長	
	・短期的アウトカムにある「学習の場の提供」はアンケートで評価できると思うが、「活動を通じたコミュニティ機能の向上」については、アンケートを使って評価することは難しいのではないかと。どのような項目で評価するかについて、整理する必要。	河野委員	・評価の基となる根拠データとして、センサスの「寄り合いの開催回数」、「活性化のための活動」を追加する。 【資料5】
	・農業を諦めるきっかけに獣害があることから、獣害防止の活動に取り組んでいるところがあれば、追加されたい。	鷺谷委員	・共同活動の項目に「鳥獣害防止施設の設置・補修」、アウトプットに「鳥獣被害の防止・軽減」を追加する。 【資料5】
	・短期的アウトカムにおいて、「洪水防止」と表現されているが、田んぼダムを含め洪水防止と言い切ることはできない。	水谷委員	・「洪水防止」を「洪水防止・軽減」に修正する。 【資料5】
	・熊本地震の復旧の取組事例を踏まえ、ロジックモデルにおいては、「防災・減災」という事前の対応項目に加え、「復旧」という事後対応の項目も必要ではないか。	中嶋座長	・アウトプットの項目に「被災施設の早期復旧」、アウトカムに「災害後の早期営農再開」を追加する。 【資料5】

区分	意見	委員名	対応方針(案)
事例調査	・うまくいかなかった地区や活動を取りやめた地区などの課題を具体的に事例として取り上げれば、非常に参考になるのではないかな。	広瀬委員	・まだ取り組んだことがない地域等の状況について、市町村への実態調査等の結果を整理。 【資料3】
	・まだ取り組んでいない地域や取り組むことによって地域農業に大きな変化をもたらす可能性がある地域への取組事例のアピールも検討する必要。	河野委員	
	・取組の効果が結果として分かってきたが、取組のマニュアルとして事例が大変役立つ。取組による効果を取りまとめた事例が増えていけば、参考になるのではないかな。	西郷委員	・本省HPのトップページにある逆引き辞典からも本交付金に係る優良事例が検索できるようになっている。適宜、優良事例集を更新するなど利便性の向上を図る。
	・事例を最大限活用できるようデータベース化して公表すれば良いのではないかな。	鷺谷委員	
	・事例をロジックモデルに当てはめて、現在、中期的アウトカムのこの項目について効果が出ている、と整理した方が一般の人にも分かり易いのではないかな。	河野委員	・事例とロジックモデルの関係性を整理する。 【資料5】
統計データ分析	・GISデータを用いた37道府県の統計データの分析結果について、中間評価においては47都道府県のデータを集計できるのか。できないのであれば、データに偏りが生じないか確認が必要。	中嶋座長	・GISの整理ができる県のデータを追加し、40道府県で再分析を実施する。
	・農地利用集積等の偏りが無い地域において、本交付金に係る活動に取り組んだ場合、どれだけ構造改革を進められるか、その効果を統計的に分析し、結果を提示できれば、取組拡大に寄与するのではないかな。		・主要な効果について、仮想条件をもとにした要因分析、PSM(傾向スコアマッチング)分析、DID分析等を検討する。